

氏名	角 南 義 文
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 241 号
学位授与の日付	昭和42年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	足関節外側側副靭帯損傷 —その機能解剖と外科的修復術—
論文審査委員	教授 児玉 俊夫 教授 田中 早苗 教授 砂田 輝武

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

足関節外側側副靭帯は、前および後距腓靭帯と踵腓靭帯よりなる。このうち前距腓靭帯が最重要であり、これが断裂すると、距骨の内反および前方不安定性を生ずる。

足関節外側側副靭帯損傷の症例では、距骨傾斜度によって靭帯損傷の程度を推定できる。距骨傾斜度は、前距腓靭帯のみの断裂では、切断肢で7°以上、臨床例で5°以上、前距腓および踵腓靭帯断裂では、切断肢で13°以上、臨床例で10°以上である。

3靭帯ともに切れると距骨は脱臼してしまう。正常足関節では5°未満である。したがって、距骨傾斜度5°以上の症例では前距腓靭帯断裂以上の損傷がある。

受傷時起立あるいは歩行の可否は靭帯損傷スクリーニングとなる。

前距腓および踵腓靭帯断裂の症例で、任意に前者のみ縫合群と両者の縫合群に分け、その遠隔成績を調べてみると、両群の間には差はなかった。

足関節外側側副靭帯損傷に対して、観血的修復術を行なった症例は64例で、このうち調査しえたのは42例であるが、平均2.5年後の遠隔成績は、著者の判定基準で、優34例(81.0%)、良7例(16.7%)、不可1例(2.3%)であった。

(昭和42年9月1日、中部日本整形外科災害外科学会雑誌、第10巻第3号に掲載予定)

論文審査の結果の要旨

本研究は屍体を用いて、足関節外側靭帯の前、中、後の3本の靭帯の損傷と足関節不安定性を検べ、前距腓靭帯が最も重要なことを立証した。また、臨床的に64例の観血的修復術を行なって、本外傷の初期治療方針を確立したものである。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。